



いのち

平成 28 年 1 月 8 日発行 第 49 号

日立メディカルセンター看護専門学校

日立市高鈴町 1 丁目 4 番 10 号

ミュージカル鑑賞

看護学科 1 年

健康科学 2 日目は、私がずっと楽しみにしていた劇団四季のアラジンを見に行きました。ディズニーの中でもアラジンはとっても好きな作品なので、今回見る事ができてよかったです。

最初のシーンは砂丘の中の街でした。様々な色の衣装を着た人たちがにぎやかに商品を売ったり買ったりしている中、アラジンと仲間が盗みをして追いかけるというシーンから始まりました。みんなが曲に合わせて踊り、とても楽しいショーが始まりました。異国情緒あふれる舞台上、アラジンの物語の世界に一気に引き込まれていきました。また、アラジンが亡き母のために盗みをやめて自慢の息子になると言っていたシーンでは、なんだか切なくなりました。

ジーニーが魔法のランプから呼び出され、軽快なテンポで歌う姿はとても楽しく、ジーニーの魔法の世界を見せてくれました。途中、茨城の事をジーニーが話しており、たくさん笑いました。

一番印象に残っているシーンは、アラジンがジャスミンと魔法の絨毯に乗るところです。星が無数にきらめく夜空に魔法の絨毯が舞台中を飛び回って、アラジンとジャスミンが歌うシーンはとても美しく圧巻でした。

全体的にとっても良い舞台で、思いつき笑ったり、感動したり、今回見る事ができて本当に良かったです。舞台終了後、多くの人たちがスタンディングオベーションをしていて、私も生まれて初めてしました。かなり長い間カーテンコールが続き、キャストの人達も何回も出てきてくれて、とても素晴らしい舞台だったのだと思いました。また、絶対見に行きたいと思います。



ミュージカル鑑賞

看護学科 1 年

劇団四季を観たのは 2 回目であり、1 回目は准看護学科の時に芸術鑑賞でリトルマーメイドを観た。今回の会場は、“海”であり、きれいな所だった。テレビでよく見る所であり、凄く楽しみにしていた。劇が始まった瞬間から、ジーニーが早口だけど聴こえやすい声で歌い、話し、ハイレベルなダンスをするなど見どころ満載ですぐ見入った。知っている曲だらけで、それに合ったダンス、演出がされていた。

使用物品や衣装が煌びやかで、どこを見ればよいのかわからなかった。アラジンとジャスミンが二人で魔法の絨毯に乗っているシーンは、美しく見とれてしまった。アラジンは真っ直ぐで仲間を大事にしていた。途中、自分勝手な行動や嘘をつき、仲間が離れていき、信頼をなくしたシーンがあり、看護の面でも結びつくと思った。協力することが大事であり、嘘ではなく真実が大切だと思う。

また、アラジンのように頼ってばかりでは成長できないのだと改めて分かった。私も教わるだけでなく、自分の力でやるべきだと思った。勉強でも辞書や教科書で調べ、学習を深めたいと思った。

戴帽式を終えて

准看護学科1年

私は4月に入学してから半年間、毎日楽しく過ごしてきました。5月の交流会では、はじめての学校行事でクラスメートと楽しい時間を過ごしました。生徒学習会や芸術鑑賞では、普段見ることのできないクラスメートの様子を見ることができました。基礎看護1実習では普段感じることはない緊張感のなか、グループのメンバーと協力して乗り越えることができました。授業では、聞いたことのないものばかりで新しい知識をどんどん覚えています。学内実習でも初めて実施する専門的なことばかりで、自分が看護師になる準備を進めているのだと感じています。

ナースキャップを受け取った時はすごく嬉しかったです。私が小さい頃に憧れていた姿に自分もなれたことに感動しました。一番嬉しかったことは、所属病院の先輩看護師達からお祝いの言葉をいただいたことです。先輩看護師達の戴帽式はどのように行われていたかなども聞くことができました。お祝いのことばと一緒に必ず言われたことばが「これからだね」や「これからが大変だよ」でした。そんな言葉を掛けられ、身が引きしめる思いがしました。

戴帽式を終えて、改めて人を看護することとは何か、自分が看護するにふさわしい人になれているのかなどを考える機会になりました。

これからは、よりいっそう努力して実習や勉強に励んでいきたいと思いました。



研修旅行を終えて

准看護学科2年

まだ残暑厳しい夏休み最終日私達45回生は一泊二日の研修旅行の為、河口湖畔、鎌倉方面へと出かけた。当日はあいにくの天気で富士山山頂を見ることは出来なかったが、山頂を覆い尽くす笠雲を目にすることができた。笠雲が山頂にかかると天気が崩れるというサインと説明を受けたが、思い描いていた顔とは違い、山の持つ多彩な表情を知ることができ私にとっては心に残るワンシーンとなった。

連日記録的猛暑日となったこの夏、各々勤務や生活を精一杯こなし束の間の休息になったのではと思う。私自身久しぶりに顔を合わせたみんなとは積もる話が沢山あった。歴史的背景を学び、肌で感じ景観の創り出す情緒を同期することができた。同じ時を共有する事により仲間としての絆が深まった様な気がした。学校や職場とは違う場所で過ごした時間は私にとってはかけがえのないものとなり心に残るであろう。同じ目標を持つ仲間がいて良かったと心から思えた。沢山の感情の渦の中、志が同じというだけで繋がる私達にとってそこに至るまでのプロセスは一筋縄ではいかない。但し、私達の目指す看護職に従事するためにはその資格に相応しい態度の修習は必須である。チームで目標に向かうには、互いの価値観を尊重する素直さ謙虚さが求められるが時として根拠に基づく考えを持ち、自己主張をする強さを併せ持たなければならない。何故ならチームの中心には必ず患者がいるからである。無責任に感情を表出する事は控えるべきであるし、他人の言葉を鵜呑みにし考える事をせずケアを提供する事があってはならない。そうならない為にチームを構成する仲間同士が多角的な考えを持ち、沢山の経験をして看護計画、看護過程を展開していくことが多様な患者の生活を支援する看護につながると私は考える。今後も仲間との日々を大切に過ごしていきたい。

入学した頃と変わっていないのは資格を取りたいという事と皆で笑顔で卒業したいと思う心である。今回の旅行でまた違う側面を見せてくれた仲間の存在に感謝し、今後の活力となる心の栄養素を十分に補充することができ、目標に向かって進む心構えができた旅行となった。